

# = 海外研修通信 = I'm possible

令和8年3月11日(水)

第 1 号

室蘭清水丘高校

令和7年度の海外研修は2026年2月5日(木)~2月14日(土)の期間で、アメリカ合衆国ワシントン州シアトルを訪問しました。シアトルにはマイクロソフト、ボーイング、任天堂、アマゾン等世界の一流の企業がいくつもあり、天才たちが集う一流の大学があり、気候も北海道と似ているので研修をするには最適な場所です。この研修の目的は、**世界の一流に触れる**ことによってももの考え方や視線を**世界基準**にすることです。普通ならば『**会えない人に会い**』、『**行けない場所に行く**』。決してお金では買えない経験をする事ができる**“特別な研修”**です。

2月5日(木) «シアトルへ!»

お昼に保護者の方々に見送られ、新千歳空港を出発し、羽田経由でシアトルへ向かいました。シアトルまで約9時間のフライト中、ジュースをこぼしたり鼻血を出したり大騒ぎでしたが、CAさんの優しさに見守られながら無事に到着しました。ドキドキの入国審査では初めての英会話です。怪しいと判断されると別室に連れていかれる可能性もあるため、小道具を手に持ちながらでしたが何とかうまく検査官とコミュニケーションを取りアメリカ入国を果たしました。待合室ではこの旅ずっとお世話になるイザベラさんをはじめ3名のコーディネーターさんたちとご対面。



もちろんすべて英語で話されます。スタディセンターへと向かうバスに乗るとき、コーディネーターさんの隣や近くを奪い合うという頼もしい光景が。約40分の道中も笑い声もあげながら会話を楽しんでいました。この後、最終日までいろんな場所でこのような積極的な行動が見られ、自分たちで“いい研修”にしていました。スタディセンターではイザベラさんのオリエンテーションが行われ、ホストファミリー宅での過ごし方や滞在中の注意点が話されました。それが終わるとホストファミリーが迎えに来てくれて、しっかり挨拶した後、各家庭へと連れていってもらいました。ホームステイはこの研修の大きな目玉の一つです。一人一家庭なので、英語を話さないわけにはいかない状況です。緊張や不安は当然ありますが、こんないい経験はないですね。

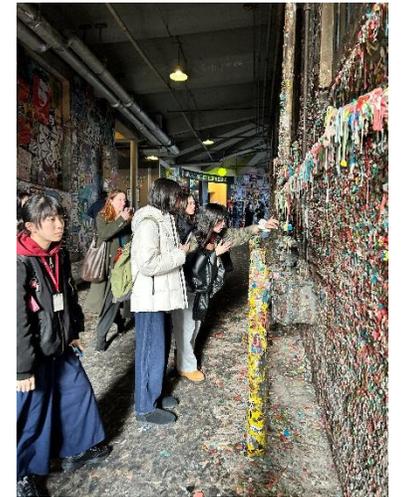
= 生徒の感想 (Day1) =

- ・入国審査でうまく話せなかったけど、出川 English でなんとかあった。
- ・ホストファミリーに会う前が一番緊張していた。楽しく夜ご飯を食べれた。
- ・初めての外国ですごく楽しみだった。
- ・アメリカに着いてバスからの景色が新鮮だった。ホストファミリーと会うのが少し緊張した。
- ・夜、ファミリーとゲームをして楽しんだ。ご飯もおいしかった。
- ・バイオリンの発表会に連れて行ってもらった。

2月6日(金)

【午前】 パイクプレイスマーケット

今日はバスではなくライト・レールという電車を利用しての移動。まずシアトルでNo.1の観光地を訪れました。一番混雑するのが『スタバ1号店』。今や世界各地どこにでもあるスターバックス発祥の店です。小さい店構えだけどコーヒー類はもちろんお土産用のカップやタンブラー等も購入できます。この日は週末だからでしょうか、午前の早い時間にもかかわらず行列ができていました。ガムウォールもこのエリアに。世界中の人達が自分で食べたガムを壁に貼り付けるという不思議な場所です。その他、多くのショップやレストランが立ち並び、みんなたくさんシアトル土産を買っていましたね。



【午後】 ポップカルチャー博物館、スペースニードル

パイクプレイスからモノレールに乗ってポップカルチャー博物館(Mopop)に移動しました。コミュニティーのワークショップというやつで脳を柔軟にした後、博物館を見学しました。館内には、映画で使用された衣装や小道具、ギター等の音楽関係の品々が展示されていたり、実際に楽器を演奏できたりゲームができるコーナーもあり、半日では全然足りないくらい見どころ満載の博物館です。帰る前にすぐ隣にあるスペースニードルでお買い物。時差ボケの解消も考えての今日の内容でしたが、疲れも見せずみんな元気よく過ごしました。帰りもライト・レールを利用しましたが、当然渋滞することもなく速くて安い。訪問個所によっては便利な乗り物です。

= 生徒の感想 (Day2) =

- ・パイクプレイスでたくさんお土産を買った。反省は、もう少しお土産を買えばよかった。
- ・ガムウォールは意外と悪臭しなかった。
- ・少し慣れてきて英語で会話できるようになった。
- ・有名な観光地に行けたのが嬉しかったし、アメリカの人と会話したり買い物できて楽しかった。
- ・スタバで初めて英語でドリンクを注文することができた。ちゃんと通じてよかった。
- ・夜は本場のハンバーガーをお店で食べた。かなりおいしかった。その後みんなで呪術廻戦を見た。
- ・ガムウォールには、想像よりも多くのガムが壁に貼り付けられていてびっくりした。
- ・スペースニードルがでかすぎた。
- ・ギターのタワーどうやって集めたの？



# = 海外研修通信 = I'm possible

令和8年3月12日(木)

第 2 号

室蘭清水丘高校

## 2月7日(土) 8日(日) «ホストファミリーとの休日»

今回の研修では、土日をホストファミリーと過ごしてもらうという内容も盛り込みました。シアトルのホストファミリーは他の地域と比べても特に親切な方が多く、安心して任せられます。それぞれのファミリーは、生徒たちに“アメリカの休日”を楽しんでもらうようにしてくれたようです。今年は、日曜日には野球(MLB)やバスケ(NBA)よりも人気のあるアメフト(NFL)の決勝戦



であるスーパーボールが開催され、そこにはシアトルのチーム(シーホークス)が出場することになり、数日前から街中はすでに盛り上がっていました。前日の地域イベントがTVでも放送されていましたが、生徒の一人がTV出演するというビッグサプライズもありました。スーパーボールの結果は、シーホークスが優勝し、花火が打ち上げられたり、街中さらに大騒ぎに。ホスト宅でも盛り上がったみたいです。

## = 生徒の感想 (Day 3 & 4) =

- ・サンデーマーケットに行ってハチミツかじりました。甘すぎなくて美味しかった！
- ・滝を見に行った。途中の道で不思議な植物を見たり楽しかった。滝もすごくキレイだった。
- ・教会でアーメンしたり、ハイキングに行きました。
- ・炭火でホットドックを作って食べたり、夜にイカ釣りにも連れて行ってもらった。
- ・ボーリングに行きました。隣のカップルと話しが弾み、仲良くなったらピザをくれました。
- ・土曜日は水族館、日曜日はホストファミリーの祖父の家でスーパーボール観戦。親戚の人たちがとても盛り上がっていて、自分も盛り上がった！
- ・夜ご飯はレアのステーキを食べました。アメリカンな味がしました。
- ・日曜日は、ホストファミリーと一緒にピザを食べながらスーパーボールを見ました！とても楽しかった！
- ・トランポリンパークに行った。子供たちと遊んだ。
- ・「エクササイズに行こう」と言われてついていたら空手教室で、屈強なアメリカ人のパンチを受け続けました笑



## 2月9日(月) «レドモンド高校訪問!»

この日は姉妹校であるレドモンド高校で1日過ごしました。レドモンド高校では、上級生の多くは“自分の車”で登校します。ちょうど登校時間に合わせて訪問したため、入り口は若干混雑。校舎の前で集合写真を撮っていると、レドモンドの生徒が「私も入れて欲しい」と真ん中に座り一緒に撮影しました。この積極性はアメリカンですね。



授業は1時間目から6時間目まで参加させてもらいました。基本的にはまずこちらで準備していったプレゼンを行い、その後サム先生が用意したアクティビティ(グループワーク)というパターン。プレゼンは、各グループとも緊張は見せつつも、レドモンドの生徒も巻き込みながら行い、とても楽しんでもらえたようです。3時間目は体育でした。ワシントン州発祥の“ピカボール”(バドミントンコートで大きな卓球のラケットを使いテニスをする感じのスポーツ)をやりました。競技の特性上、ソフトテニス部の生徒が大活躍！ピカボールの才能ありです。ランチはいつもどおりサム先生の計らいで、生徒一人にバディを付けてくれて、ランチタイムも交流を楽しみました。



6時間目はバディに連れられて別々の授業を受けさせてもらい、レドモンド高校の訪問は終了です。授業にはペンパルで交流している生徒や去年室蘭に来たサラとルークもいました。毎回そうですが、同年代の生徒との交流は、お互い多少言葉が分からなくても写真を撮ったりインスタを交換したり、日本語-英語“ごちゃまぜ会話”で楽しく過ごさせてもらっています。いろいろ考えてくれているサム先生には感謝ですね。

## = 生徒の感想 (Day 5) =

- ・バディがみんないい人で、10人以上でランチを食べた。
- ・海外のことなどの話しをしたらすごく盛り上がった。いろんな人と仲良くなれた。
- ・英語は何となく言ってることがわかり、しゃべることができるようになってきた。
- ・プレゼンを楽しんでくれたようで良かった！
- ・みんな親切で特にランチバディと仲良くなれた。バディがレドモンドのTシャツとクッキーを買ってくれた。
- ・たくさんの人と仲良くなり、日本のことを教えてあげることができた。楽しく交流できた！
- ・レドモンドの高校生との交流は、アメリカ人の性格を知るいい経験でした。
- ・たくさん友達が出来た！みんなフレンドリー！



# = 海外研修通信 = I'm possible

令和8年3月13日(金)  
第 3 号  
室蘭清水丘高校

2月10日(火)

## 【午前】ボーイング社パイロット 前田さんの講演 & 格納庫ツアー

海外研修で絶対に外せないのが前田さんの講演です。前田さんは事故(相手の不注意)で右目の視力を完全に失い、パイロットになるという夢をあきらめました。日本では視力がないということだけで就職ができなかったり、様々ないじめに苦しむ人生を送っていたところ、アメリカで



は視力がなくてもパイロットになれることを知り、様々な訓練を受け、夢を実現させた“不可能を可能にした男”です。現在もアメリカの空を飛んでいます。ただ飛んでいるだけではなく、数年前のコロナ渦の最中、前田さんの自家用機(ルーシー)で世界一周も達成しました。その前田さんの世界一熱いプレゼンを“体験”しました。前田さんのプレゼンは、聞くものではなく“体験”するものです。毎回多くの生徒が前田さんのプレゼンに勇気をもらい、その後の人生にもいい影響を与えてもらっています。プレゼンの後は世界一周を果たしたルーシーのいる格納庫へ。実際にルーシーのコクピットにも乗せてもらいました。めったに出来ない貴重な体験をさせてもらいました。

## 【午後】マイクロソフト社 訪問 日本人社員の方との座談会

今回は、マイクロソフトの歴史が学べるビジターセンターが閉鎖されていたため、日本人社員の方々との座談会がメインになります。対応していただいたのは、最先端のAIを研究・開発をされている方々です。生徒の質問にもたくさん答えてもらいましたが、ちょっとした質問に対し



ても例をあげたり深掘りしたり、答えの内容はもちろん参考になりましたが、“答え方”が論理的で分かりやすく、そこも勉強になったと思います。一流の人とはそういうことです。非常に興味深いお話しもたくさん聞けました。世界の大企業で活躍している同じ日本人の方の話しを聞くと、“いつか自分も”という気持ちになり、海外で働くということに憧れをもちますよね。

この日は今後の人生において大事なことをたくさん学べた有意義な一日となりました。

## = 生徒の感想 (Day6) =

- ・前田さんの話しがとても感動した。
- ・前田さんの話しを聞いて、今ある当たり前がいつ変わってもおかしくないと思った。自分の持つ夢は自分の力で叶えることができると感じた。たくさん考えさせられて感動しました。
- ・感動する言葉をたくさん聞くことができた。
- ・前田さんの講演は、ためになることばかり教えてもらうことができました。
- ・前田さんのお話しでは、命の大切さをあらためて知ることができた。
- ・前田さんの講演は、高校生の自分たちにとってすごく役に立つ話だった。将来のことをもって考えようという気持ちになって、いろんな人に聞いて欲しいと思った。
- ・マイクロソフトで人生のこれからについて話しを聞いた。
- ・マイクロソフトで勉強や考え方などについて教えてもらい、いろいろ考えさせられた。
- ・マイクロソフトの方々の話しは、将来の進路を決める上でとても参考になりました。
- ・マイクロソフトでは、アメリカで困った時にどうしたらよいか教えてもらえてよかった。

2月11日(水)

## 【午前】航空博物館訪問

ボーイング社のあるシアトルは飛行機の街。この博物館には広い敷地の中に、ライト兄弟が設計した飛行機や宇宙に飛び出したアポロ船、第1次2次世界大戦で使用された各国の戦闘機や大統領専用機まで、とにかく貴重な航空機が数多く展示されています。全て実物で、中にはまだ動くものもあるようです。半日ではゆっくり見ている時間がないくらいです。コーディネーターさんの一人が、「生徒たちがいろんな人(スタッフ?)に質問していて、その積極性にビックリです」と言っていました。だいぶアメリカンになってきましたね。

## 【午後】ワシントン大学(UW)訪問

ワシントン大学は、全米でも超一流大学の一つ。図書館はもちろん、カフェや芝生の上でもどこでも勉強している姿がありました。一流というのはそういうことだと学べたと思います。そんな超一流大学の学生であるDJ君の案内で大学構内を見学して回りました。途中DJ君への質問タイムもありつつ、有名なハリーポッター図書館も訪れました。館内は薄暗く、勉強がはかどりそうな雰囲気でした。この中から世界を動かす人物が生まれるんでしょうね。

実はこの日はスーパーボールで優勝したシーホークスの優勝パレードがあり、シアトルの街中がウキウキしていた一日でした。

## = 生徒の感想 (Day6) =

- ・ワシントン大学は、めっちゃ広くてびっくり
- ・大学に行きたいという気持ちが強くなった。
- ・ワシントン大学は一つの街かと思えるくらい広がった。
- ・ボグワーツすぎる! こういうの好き!
- ・航空博物館は、ここでしか見れないものがたくさんあり感動した。
- ・いろんな飛行機にも乗ることができた。



# = 海外研修通信 = I'm possible

令和8年3月16日(月)

第 4 号

室蘭清水丘高校

2月12日(木)

≪海外研修最終日≫



朝、スタディセンターに集合し、短い間でしたが大変お世話になったホストファミリーとお別れです。思い思いにハグをかわしている姿が名残惜しさを物語っていました。日本への帰国便は夕方のため、午前中は少しだけ市内見学です。まずアマゾン本社へ向かいました。社屋が球体で有名な本社です。中には入れなかったため、イザベラさんの説明付きで建物をまわりました。本社の前には誰でも無料でバナナをもらえる“フリーバナナ”のコーナーもあります。アマゾン本社を出発し、空港近くのモールでショッピング&ランチです。そしてこの旅の最後、シアトルタコマ空港で、コーディネーターさんたちとお別れをして、シアトルを発ちました。

帰りは羽田に到着してからの千歳便がないので、東京1泊です。

ホテルでは男子の部屋の前を通ると、中から「オーマイガッド」の叫び声。アメリカンが抜けていません。翌日はお昼すぎに新千歳空港に到着し、海外研修は終了しました。

Impossibleを**I'm possible**にするのは自分次第。今後いい人生を送れるきっかけとなった研修だったと思います。いろんな方々のおかげで、とてもいい経験をさせてもらいました。次は、それを実行に移す強い決意と覚悟をもって日々を過ごすことです。

## = 生徒の感想 (最終日) =

- ・ホストファミリーの人達に感謝の気持ちを伝えることが出来た。シアトル研修に携わった人たちにも感謝の言葉を伝えることが出来た。
- ・ホストファミリーとのお別れは寂しかったけど、また会えたらいいなと思った。
- ・最終日にお土産を買ったり、最後まで楽しく過ごせた。
- ・長いようであっという間だった。いろんな思い出ができて、人生の価値観も広がったと思う。たくさんの出会いがあって、まだアメリカにいたかった・・・。
- ・ホストファミリーとイザベラとハナに感謝を伝えることができた。
- ・めっちゃ帰りたくなかった。
- ・最終日はずっと食べたかったアメリカのハンバーガーを食べることができて嬉しかった。空港では最後に散財しました。
- ・千歳までの飛行機、離陸する前に気を失っていた(寝た)。
- ・日本に帰るのは悲しかったけど、日本食が食べたすぎたからよかった。味噌汁が恋しかった。

≪R7 海外研修参加生徒の感想≫ (研修後の反省・感想文から一部を抜粋したものです)

☆ 今回の研修は、私にとって人生の中でも特に印象に残る貴重な経験となりました。2年連続の参加でしたが、日程がほとんど同じでも実体験が多く体験の濃さが大きく違ってもよい経験になりました。2年連続参加した甲斐がありました。特に、昨年レドモンドの高校生と1時間交流しただけで、1年後に自分のことを覚えてくれているとは思いませんでした。英語学習の面でも大きな学びがありました。自分の伝えた英語を正しい表現で言い直してもらうようお願いしたことで、短期間でも確実に成長を感じることができました。体験を通して学ぶことの大切さを実感した研修でした。この経験をこれからの成長につなげていきたいと思いました。 Koshiro

☆ ずっと海外に行くのが夢だったし、たくさんの経験がしたかったから、勇気を出して参加して本当に良かったと思う。ホストファミリーも色んな人が優しく、みんなフレンドリーで話しかけると笑顔で優しく接してくれる人が多く印象に残った。アメリカでは、たくさんの人に聞いたり話したりすることが多かったため、話しかけるのが苦手だったけど結構克服した気がした。アメリカで働いている日本人の方々は、行動力がすごいと感じたし、みんなカッコよく、すごく憧れた。シアトルに行って『これいいな』とか『やってみたいな』とかたくさん出てきた。それを本当にやるなら思っているだけではなく、行動に移そうと思った。将来について真剣に考えるきっかけにもなったと思う。この貴重な経験が無駄にならないようにするのは自分次第だから、これを活かして今後の高校生活を頑張りたいと思った。 Mei

☆ 私はこの海外研修で学んだことが3つあります。1つ目は前田さんのお話で学んだ『挑戦することの大切さ』です。パイロットになるまでの道のりや努力してきたことを聞いて、自分の将来について深く考えるきっかけになりました。今まで失敗を恐れて挑戦しなかったこともありましたが、これからは勇気を持って挑戦しようと思いました。2つ目は親のありがたさです。ホストファミリーがご飯を用意してくれたり送り迎えをしてくれたりたくさん気にかけてくれました。日本でいつも支えてくれる家族のありがたさに気づくことができました。3つ目は勉強の大切さです。最初は英語が話せず不安でいっぱいでした。ホストファミリーと過ごすうちに少しずつ慣れてきて会話もできるようになりました。レドモンド高校やワシントン大学に行ったことで、将来の選択肢を広げるためにも今の勉強が大切だと感じました。この研修では、多くの人に出会い、日本とは違う文化や考え方に触れ視野が広がったと思いました。この経験をこれからの人生に役立てていきたいです。 Miu

☆ シアトルに行ってまず気がついたことは、みんなフレンドリーで、見知らぬ人同士でも「Have a good day!」と声を掛け合うことです。日本でもこういう文化があったらいいなと思いました。替えてもらったホストファミリーと一緒に映画を見たり、ゲームをしたり、ご飯もデザートもおいしかったし、行きたい場所にも連れて行ってくれました。前田さんの講演を聞いて、I'm possibleという言葉が印象に残りました。レドモンド高校では、仲良くなった人たちとインスタも交換し、今でもまだ連絡を取り合っています。ワシントン大学は敷地が広く、図書館なども見学し、日本との違いにいろいろ驚きました。今回、海外研修に参加した理由は、日本との文化の違いなどを直に学びたかったからです。シアトルで過ごすことで、多くのことを学びました。この体験から、もっと英語力をつけて、色んな人とコミュニケーションをとれるようにしたいと思いました。 Yuma

☆ 今回の海外研修を通して、学ぶことが多かったと感じました。訪れた場所や講演はとても満足  
のいくものでした。1番楽しかった場所はポップカルチャー博物館です。実際に映画で使われた展  
示品を見ることができたり友達とゲームをして楽しむこともできました。休日はホストファミリー  
と一緒にスーパーボール観戦をしました。親戚の人達も集まり、一緒に盛り上がりました。ワシン  
トン大学の学生やマイクロソフトの方々のお話や、特に前田さんのお話を聞いたことは大きな財産  
となりました。1番貴重な体験をしたと思うことはホームステイです。最初は不安で緊張していま  
したが、ファミリーの方が優しく、ゆっくり英語を話してくれたり、快適に生活させてくれるよう  
に工夫してくれました。ご飯も栄養バランスを考えたものを作って来て、感謝しかありません。  
今回の経験を生かして英語をしっかり学び、日本で留学生や観光客の人たちにも英語対応できるよ  
うになりたいです。このような海外研修があったらまた参加したいと考えています。 Hiroto

☆ シアトルに行って、初日は緊張して英語を話せるか不安で一杯だったけど、日を重ねるうちに  
シアトルの人達の優しさに気づき、ホストファミリーの温かさにとっても救われました。海外研修で  
得たものは積極性です。何でも自分から動いたり積極的に話しかけたりする大切さを学びました。  
楽しかったことは、レドモンドの生徒との交流です。一緒に授業を受けたり、楽しく話しをしたり  
することで友達がたくさんできたことが嬉しかったです。前田さんの講演はとても感動しました。  
何事も諦めないで挑戦することを目標にしたいと思いました。ワシントン大学の学生には頭がいい  
人の勉強の仕方や集中の仕方を聞いてやる気が出た感じがしました。ホストファミリーは大変よく  
してくれて、感謝の気持ちを忘れずにファミリーと接することができました。最終日は離れ離れに  
なるのがとても寂しかったです。アメリカと日本とは文化も価値観も違い、とてもいい経験がで  
きました。 Haruka

☆ 人生初めての海外で、最初は不安も多かったけど、2日目にはアメリカの生活に慣れました。  
英語は、聞いても話すのが難しいと感じました。自分の持っている知識で言いたいことを話すのが  
本当に難しかったです。ジェスチャーも使いながら頑張りました。印象に残っているのは前田さん  
のお話です。飛行機の話しかかと思っていたら、前田さんのこれまでの人生や、世界一周の裏話で、  
心打たれるものがありました。話しを聞いている時、自分も周りにいる人に支えられているなど感  
じ、親の顔が浮かび、もっと感謝を伝えるべきだなと思いました。ホストファミリーと過ごしたこ  
とも印象に残っています。マザーは歳をとっているにもかかわらず、色々な所に連れて行って  
くれました。今後の目標は、英語をもっと勉強してもう一度アメリカに行きたいです。今ある当  
たり前の日常を1日1日大切にしたいです。親にはたくさんお金を出してもらって、貴重な経験を  
させてもらったので、この経験を無駄にしないで今後に活かしたいです。 Aika

☆ シアトルに着いてから、外国人に話しかけられても何を言っているのかわからず絶望していた。  
しかし、コミュニケーションをとっていくうちにだんだん話せるようになり、成長を感じた。ホ  
ストファミリーとの対面で最初は緊張したが、色々質問することで打ち解けることができた。前田  
さんの話では、何が何でも諦めない大切さを教わった。レドモンド高校では、同年代の高校生と  
授業を一緒に受けたりペンパルの相手と楽しく食事をする事が出来た。パイクプレイスでスタバ  
の1号店に行き、初めて英語で注文することができた。ワシントン大学は想像以上に広くて驚いた。  
今回、新しい発見や自分の刺激になることを求めるのと、英語力を上げる目的で海外研修に参加  
した。この研修で、言葉や文化の違う国の人たちとコミュニケーションをとる能力と自信が身につ  
いたと思う。もっとスラスラ会話できるように頑張りたい。 Shoma

☆ 何もわからない異国の土地で、自分の力量がどこまで通用するだろうと思ひ応募した海外研修。  
もちろん手厚いサポートや、親の支えが無ければ海外に行くことはできなかった。それでも海外  
に行って無事に帰って来られたことには達成感を覚えた。その土地で会う様々な人たちと話しをし  
て、触れ合って、今も彼らは私たちの過去を生きているという感覚が不思議でたまらないのと同  
時に、その人たちとの繋がりを感じさせる。たくさんの繋がりを作ってたくさんの会話をした。日本  
にいては得られない経験をした。私には夢がある。前田さんの講演で聞いた言葉は今もまだ頭にあ  
る。「まだ始まってすらいない」と聞いた時、早く夢に近づきたいという焦りが少し治まった気が  
した。失敗したとしても、道は1つじゃないという事実を心に刻んでいけば、失敗を恐れずに成功  
へと繋がれると思った。この研修では少し世界が広がった。人生が変わるとまではいなくても、  
すごく大きなものを私に与えてくれたと思う。これからの人生で確実に良い経験だった。  
何から何まで手厚いサポートをしてくれた方々に、深い感謝を。 Momoe

☆ とにかくすべてのものが初めてで新鮮に感じた。新しいものに出会う楽しさ・喜びが感じられ  
た。出会う前はいろいろなことを恐れて身構えていたけれど、実際に行ってみれば、意外と  
そんなことはなかった。特に外国の人との会話。自分に英語で伝える実力はあまりないという中で、  
とにかく不安だったけど、いざ話してみると、意外と理解してもらえたことが分かった時、不安が  
一気に無くなった。とにかくやってみることが大事なんだと思った。これから新しいものにチャレ  
ンジする時、不安よりも楽しみや期待を感じるようになった。食文化や生活様式の違いにも驚いた。  
最初は抵抗があったけど、慣れてくるとこちらの方が良いかもと思うようになった。苦手だ嫌だ  
といって避けていては人生広がらないと思った。日本とは全く違う文化を体感することで、多様な考  
え方や価値観が大きく広がった。この研修で大金を出してくれたり応援してくれた親に感謝したい。  
そして、今回の経験を活かして、いつか絶対に恩返しをしたいと思う。 Jo

